

## 米国先行のAIスピーカー、いよいよ日本上陸

### ◆アマゾンに先行して、グーグルが日本語対応のAIスピーカーを年内発売

「私の今日の予定を教えて」、「ショパンの音楽をかけて」とリビングで会話する相手は、家族ではなく、Wi-Fi経由でネットと接続する人工知能（AI）搭載の音声認識スピーカー（以下、AIスピーカーと呼ぶ）だ。まもなく日本の家庭でも、こうした光景が見られるようになる。

米グーグルは、2017年5月、日本語に対応したAI「グーグルアシスタント」を搭載したAIスピーカー「Google Home」を年内に日本でも発売すると発表した。AIスピーカーは、キーボードにさわったり、スマホのアプリを起動させる必要もなく、話しかけるだけでネットの検索結果を教えてくれたり、家電の操作などができる。「Google Home」は米国では16年11月から、129ドル（約1万4千円）で販売されているが、日本での具体的な発売日や価格は未定だ。

AIスピーカーは、日本では、まだなじみの薄い商品だが、米国では14年秋に、米アマゾン・ドット・コムが独自の音声認識AI「アレクサ」を搭載した「Amazon Echo」（約180ドル）を発売、販売台数が800万台を超え、急速に普及している。

さらに、LINEが今夏独自のAIを搭載したスピーカーを日本と韓国で発売する他、ソフトバンク、NTTドコモなどの日本勢も年内に参入を予定している。

### ◆AIスピーカー注目の背景に、劇的な音声認識技術の向上

「ポスト・スマホ」と呼ばれるほど、AIスピーカーへの関心が高まっている背景には、人間の声を聴き取り、話し言葉を理解する音声認識精度の飛躍的向上がある。アップルの「シリ」に代表されるように、いまも音声認識技術はあるが、この3年ほどで、深層学習（ディープラーニング）に基づく技術革新で大幅に性能が進化した。米グーグルによると、AIに深層学習を取り入れた結果、同社のAIが人間の言葉（英語）を聞き間違える確率は、1年弱で8.5%から4.9%に下がったという。ちなみに「Google Home」は、最大で6人の声の聞き分けが可能だ。

「話しかける」動作は、いわば究極の人にやさしいユーザーインターフェースだ。AIスピーカーは、おそらく今年注目のデバイスになるだろう。 【秋元真理子】